

授業科目名：コミュニティデザイン演習2	教員の免許状取得のための必修科目（選択科目）	単位数： 2単位	担当教員名：渡部陽介
			担当形態 単独
実務内容 (実務家教員の場合)	建設事業に関わる自然環境・景観保全について評価・計画手法の研究開発に従事。また、景観ワークショップやコミュニティガーデンの社会実験等、地域連携プロジェクトの経験を有する。		
<p>「学位授与の方針」との関係</p> <p>A～F, 6つの学位授与方針すべてに関係している。</p> <p>A. 共生社会創造のために、教育、福祉、環境、国際関係、スポーツ身体表現の専門的知識を生かし、狭い専門領域を越えて統合しようとする意志を持つこと。</p> <p>➤ 自然共生を基軸としたコミュニティデザインは、自然科学・人文社会科学にまたがる学際的課題であり、狭い専門領域を超えて統合している。</p> <p>B. 問題が生起する現場において、専門知や統合知を使い、解決のために実践しようとする気概を持つこと。</p> <p>➤ 身近なまち・地域を対象に専門知・統合知を活かしたコミュニティデザインの演習を行い、実践への動機付けの機会をつくっている。</p> <p>C. 共感理解教育の理念を認識し、実践すること。</p> <p>➤ 人と自然のかかわりを丁寧に掘り起こす演習を通じて、共感理解教育の理念・実践への理解を促している。</p> <p>D. 多様な人々や生命に対して、他者を認め、他者を排除せず、仲間を作るという星槎の三つの約束の精神に則って、共生社会の創造に貢献する姿勢を身につけていること。</p> <p>➤ コミュニティデザインの多様性についてグループ討議を通じて受講者同士が学びあうことで、相互理解や協働意識を醸成し、共生社会の創造に貢献する姿勢を養う。</p> <p>E. 個人や社会にとって必要な課題の解決のため、自律的な課題探究能力を身につけていること。</p> <p>➤ 土地の自然・社会条件を読み解く方法を学び、自律的な課題探求能力を身につける。</p> <p>F. 共生社会創造の目的のために、絶えず学び続ける意欲を持つこと。</p> <p>➤ 演習の対象地域を身近なまち・地域に設定することで、受講後も日常生活のなかで継続的に学び続けられる動機を喚起する。</p>			
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 身近なまち・地域における人と自然のかかわりを掘り起こす方法を理解できている ・ 身近なまち・地域の特性を総合的に理解し、自然共生を基軸としたコミュニティデザインの提案ができている ・ 成果をプレゼンテーション・レポートとしてまとめられている 			

授業の概要

グローバルな経済成長の肥大化による環境危機・社会問題が深刻化するなか、身近なまち・地域から持続可能な社会に向けた変革を実践していくことが急務となってきた。さらに、新型コロナウイルスのパンデミックに伴い、生活や仕事、遊びなど様々な営みがローカルに完結する状況が発生してきている。どのようにすれば身近なまち・地域において自然の恵みを活かしつつ、節度ある豊かな暮らしを再興していくことができるのか、改めて問われている。

本演習では、「自然共生を基軸としたコミュニティデザイン」をテーマに、身近なまち・地域の自然や社会、歴史等を読み解き、課題探索や調査・分析、解決策の提案といった過程を通じて、コミュニティデザインの多様性を学んでいく。

授業計画

- 第1回： 人と自然のかかわりを掘り起こす目的と意義
- 第2回： フィールド調査（1）：現場での気づき
- 第3回： テーマ・課題の設定
- 第4回： 調査計画立案
- 第5回： 資料調査（1）：まち・地域の歴史を読み解く
- 第6回： 資料調査（2）：まち・地域の自然環境を読み解く
- 第7回： 資料調査（3）：まち・地域の生活を読み解く
- 第8回： フィールド調査（2）：まち・地域の資源・課題の探索
- 第9回： フィールド調査（3）：オーラルヒストリー
- 第10回： データ分析（1）：コミュニティ史
- 第11回： データ分析（2）：地域資源マップ
- 第12回： 人と自然のかかわりの地域特性の総合考察
- 第13回： コミュニティデザインの提案
- 第14回： プレゼンテーション・グループ討議
- 第15回： 総括

定期試験

スクーリングでの学修内容

（主に、シラバス授業計画の第1～第15回までの内容を含む。）

スクーリングでは、まず学修の狙いや授業計画各回の要点について教員が解説する。その上で、アクティブラーニングの手法を取り入れた学修を行う。具体的には、自然共生を基軸としたコミュニティデザインについて、受講者の演習の成果をプレゼンテーションとして発表しあう。さらに、受講者同士で演習成果の共通点・相違点をグループ討議し、コミュニティデザインや自然共生の多様性について理解を深めていく。

教科書

- 1) NACS-Jふれあい調査委員会：人と自然のふれあい調査はんどぶっく
 - 日本自然保護協会 TEL 03-3553-4101（平日 10:30～15:30）
E-mail shop@nacsj.or.jp（通販専用）で注文可能
- 2) 宮内泰介：歩く，見る，聞く 人びとの自然再生，岩波新書，ISBN978-4-00-431647-3
- 3) 西村幸夫・野澤康（編）：まちの見方・調べ方 地域づくりのための調査法入門，朝倉書店，ISBN978-4-254-26637-5

参考文献

- 1) 結城登美雄：地元学からの出発 この土地を生きた人々の声に耳を傾ける，農文協，ISBN978-4-540-09214-5
- 2) 吉本哲郎：地元学をはじめよう，岩波ジュニア新書，ISBN978-4-00-500609-0
- 3) 山崎亮：コミュニティデザインの時代，中央公論新社，ISBN 978-4-12-102184-7
- 4) 笥裕介：ソーシャルデザイン実践ガイド，英治出版，ISBN978-4-86276-149-1

学生に対する評価

レポート評価（25%），スクーリング評価（25%），科目修得試験（50%）の割合で総合して評価する。